

## 2014年11月、〈福島親子・町田の森あそびツアー第4弾〉 たくさんのご協力、本当にありがとうございました!!

はちみつ會主催の「町田の森あそびツアー」も、今回の11月22～24日で4回目となりました。晩秋の落ち葉がいっぱいで、きれいな青空に子どもたちの声が響いていた大地沢青少年センターも、いまは本格的な冬に入って、オタマジャクシの池も氷が張っているころでしょうね。

まずは、この会報をお読みくださっている皆様、お一人お一人のお力が集まったから、今回も無事にこのツアーが企画でき、無事に終わったこととしてお礼申し上げたいと思います。本当にいつもいつも、どうもありがとうございます。

最初のころは、多くの方々にご協力をお願いする素晴らしさがわかっていませんでした。お願いするって大変だろうなあと、お金は自費で出そうと考えたりしていました。でも、最近、多くの方たちにご協力をお願いしていること自体が、すでに楽しい休日そのものなのだとわかるようになりました。

3回目のツアーから4回目までの間に、新たに大学関係者や作業所、スーパーの方々など、たくさんの方の人にお会いして、はちみつ會の活動をお伝えする機会がありました。はちみつ會の活動に関心を持っていただけると、「ああ、嬉しい、ありがたい!」とももちろん思うのですが、実は、それ以上のものをプレゼントされている、それ以上のものに出会っていると思うのです。皆さんの、「これも使えないかな」「こんなのもやってみようか」と申し出てくださる時のきらきらした笑顔に包まれて、心がホカホカする、そして、「自分たちだけでなんとかしなくちゃなんない」なんてガチガチした心が、いろんなアイデアを教えて頂いて、のびのびほぐれてくるとなると、それは「お力いただけますか」とお願いすること自体が、素晴らしい経験なのです。

今回も多くのお力をお願いさせていただき、誠にどうもありがとうございました。

ツアーのきっかけになった出来事は、不幸なことです。福島に行くたびにお会いする参加者の皆さんやツアーの申込みの時にお話しする方々の声を聞くと、複雑な思いでいっぱいです。でも、参加してくださる方がいる限り、この休日をご一緒に続けていきたいと思えます。本当に「楽しいっていいことだな〜」と、福島のみなさんも、ボランティアの皆さんも、そして私たちも、お一人お一人が心の底からそう思えるような休日のために、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

はちみつ會 一同

# 秋の森で楽しい休日を過ごしたよ!

落ち葉の山のなかには…  
かえる先生が冬眠中?!



## 福島の子どもたちとのふれあいから…

今回が、私にとって初めてのボランティア活動でした。私も福島出身で、保育の道をめざしているということで、はちみつ會のスタッフさんに誘っていただき、参加することになりました。

福島の子どもたちはとても元気で、はじめて会う私にもフレンドリーに接してくれました。そのおかげもあり、緊張していた私も元気に子どもたちと触れ合うことができました。子どもたちは福島の現状を理解していて、ふだん山や川で遊ぶことができないということを話していました。福島は本来、自然豊かで素晴らしいところなのに、子どもたちは自然のなかで遊べないなんてとても残念なことだと、あらためて実感しました。

このようなツアーを企画し、福島のことを思っている人がたくさんいることを知ることができて、今回のボランティアは私にとって、とても有意義なものになりました。(大橋)

## 元気な「いただきます!」始まる楽しいごはんタイム

毎回の食事は、子どもたちが前に出て、「いただきます!」をして始まります。私事ですが、このシーンがとても好きです。手作りのあったかいメニューも素敵だなと思い、2日目の夕食作りのボランティアが楽しみでした。

この日のランチは、座間のイタリアンレストラン「ラ・リチェッタ」のシェフが作ってくださった「タコライス」と、午前中の「料理教室」で福島のお母さんたちが子どもたちに作ったパンケーキで、どちらも大人気でした。

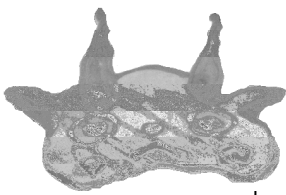
夜のメニューは、素朴であたたかな豚汁です。しかも86人分! 豚肉約2キロ半、大根4本、人参12本、30個を超えるジャガイモなど、材料を刻むだけでも大変な量でした。でも、そこは、はちみつ會。細かいことは言いつこなして、それぞれの方の持ち味を生かした(?)、具たくさん豚汁ができあがったのではないのでしょうか? 寸胴鍋3ついっぱい豚汁が湯気を立てるところには、ボランティア同士も、おしゃべりがはずんでいました。

好き嫌いもあったと思いますが、おかわりもいっぱいしてもらいました。福島のお母さんから、「食事を作らないでいいのは助かります」と声をかけていただき、うれしかったです。

ついでに一言、豚汁の残りは翌朝のみそ汁に活用。具を増量して食べきりました。こうした使い回しや、余り野菜までフルに活用したメニューは、食事係の監督役、みっちーさんのアイデアと即興とか。はちみつ会ならではの楽しい食事作りでした。(坂口)

今日もおいしく「いただきま〜す!」  
みんなの笑顔がなによりです^^





↑これは  
妖怪コマさんの  
ホットケーキ

## ジバニャンのパンケーキだよ!稲垣さんのお料理教室



はちみつ會のツアーではすっかりお馴染みの、イタリアンレストラン「ラ・リチエッタ」のオーナーシェフ、稲垣さんのご協力により、今回も福島のお母さんたち向けの「お料理教室」が開かれました。今回のメニューは「パンケーキ」。侮ることなかれ!職人技の、そしてとっても楽しい、目からウロコのパンケーキです♪

福島のママの皆さんがキッチンに集合。すでに焼かれた試作品の「ジバニャン」(from いま子どもたちに大人気の「妖怪ウォッチ」)に、歓声が上がります!

まずは稲垣さんのデモンストレーション。皆さん興味津々。フライパンに生地で輪郭が描かれ、次に輪郭の中に生地が流し込まれます。ひっくり返すとまた歓声が!

いよいよママたちの出番です。はじめは緊張の様子ながらも、皆さん思い思いのキャラクターを描いていきます。キティちゃん、リラックマ、ミニーちゃん…。「もどき」ぶりに大笑いしたり、楽しそうな様子はまるで女子高生!?それでも、焼き上がるとすっかりママの顔。お子さんに見てもらおうと大事に運びます。

お料理教室の後は、稲垣さんが作ってきて下さった「タコライス」でランチ。お肉とお豆たっぷり、チーズがアクセントのスパイシーな美味しさに、ご飯がすすみます。稲垣さん、ご協力ありがとうございました。

福島でも「ジバニャン」焼いてるでしょうか? またお会いしましょう! (藤岡)



## 女子に大人気☆ 手作り小物の製作コーナー

ボランティア当日、製作のために食堂で前準備をしていると、「今日は何を作るんですか?」と声をかけてくださる方が…。午後は空いているからと待つくださる方もいらして、うれしい気持ちでいっぱいです。

さっそく今回は、クリスマスツリー製作と毛糸のリース作りをメインに行ないました。午前中は外での製作。小さい虫と戦いながら、靴下は真っ黒。そんな中での製作。できるだけ自分で作ってほしくて、小さなお子さんにも、見守りながらはさみやボンドを使ってもらいました。

午後は、親御さん向けの製作。前回は指編みをしましたが、今回は手作り編み機でリースを作りました。毛糸の色やスパンコールにこだわりながら、みなさん素敵な作品ができあがっていました。

でも何といっても、女の子たちの飲み込みの早さに脱帽でしたね。あっという間に数十センチ編んでしまう…違った意味で女の戦い?さすがです。今後も楽しいひとときを作っていけたらと思います。(高橋)

ストロー竹とんぼの  
おじさんも来てくれたよ!  
上手に飛ばせるかな?



## <番外編>

ツアー当日の朝。野菜やお肉など、新鮮なものを食べてもらいたく、10人ほどのお買い物ボランティア部隊が、町田のスーパー「三和」に集合しました。2チームに分かれてカゴを押し、メモで指定された物を求めて店じゅうをぐるぐると歩き回りました。

わたくし、お買い物部隊にはドキドキの初参戦でしたが、なかなかよいチームワークだったかな、と思います! 予定時間は過ぎてしまいましたが…(^\_^; あんなにたくさんの食材は見るのも買うのも初めてで、なんだか気持ちがいいものだね~なんて、お話ししていました。

食材をカンパして頂いた(株)三和さん、本当にありがとうございました!







## パパたちが大活躍のほっくほくの焼きいも

町田市にある作業所「共働学舎」からもらった、おいしそうなおいしそうな、ほっこりふっとい、おいもさん！これをおやつに出すのに、台所で蒸したりゆでたりするんじゃなくて、秋にふさわしい落ち葉を使った…「いやあ、やっぱり落ち葉で焼き芋でしょう！」

すごい煙のなかで  
がんばるパパたち

と、懇親会でつい言ってくださった福島からのお父様。「そ、そうですかね」なんて、遠慮しつつも、いそいそとセンターの職員さんにご相談。

職員さんも突然の申し出に「ほお～、やきいもですか～。いやあ、ここでは実際にやったことはないですけどね」と言いつつも、落ち葉のたき火でほっこり焼けるような場所も快く準備してくださいました。ほんとにどうもありがとうございました！

さてさて、「ぱぱす4」（お父さん4人、ですね）と愉快的仲間たちで、秋の大地沢を満喫する焼き芋。途中でまき割りしたり、落ち葉集めをしたりの作業もしながら、ゆっくりゆっくり火の番しつつ、まさに大人の火遊び。ながあく時間はかかったけれど、皆さんの気持ちが温まって出来た焼き芋さんは、やっぱり、どうしても優しい味でした！

あ～たのしかったな。ねねっ、また、来年もやっちゃいます



## みんなで歌えば、寒さなんてへっちゃら！ ファイナルはやっぱり、キャンプファイヤー！！

春の保養に引き続き、今回も「キャンプファイヤー」を行ないました。11月末に外でキャンプファイヤーをやるのは少し寒いのではないかという危惧もありましたが、大人も子どもも一緒になって体を動かしていると、寒さはほとんど気にならないくらいでした。

子どもたちのうち10人に代表してもらい、火を灯したトーチを持っての入場、点火の後には、次から次へと体を動かすゲームを続けました。途中では、はちみつ會のマスコットとして定着しつつある(?)犬の「ビー君」も現れ、みんなの笑顔の中で楽しく歌い、踊りました。

キャンプファイヤーの締めくくりには、子どもたちに大人気の「アナと雪の女王」から「Let it be」を大合唱。最後に、温かい焚火にあたりながら「焼きマシュマロ」をいただきました。

終わってからも子どもたちからは「キャンプファイヤー楽しかった！」聞かれ、思い出に残るひと時になったことと思います。(山本)



ビーくん

焼き芋をほおばりながらの「ピース！」  
みんな、大きくなったね～



# たくさんの思い出とともに…また会おうね！

## \*福島のお母さん・お父さんの声\*

### <ツアーに参加して…>

- \* 外で落ち葉の上で走り回ったり、焼きイモ、キャンプファイヤー、季節の工作など、子どもたちが笑っているのを見て、参加して本当に良かったと思いました。
- \* 外遊びは、枯葉があるだけでこんなにも楽しく夢中に遊べるものかと感心しました。いきいきとした顔で、福島ではできない枯葉遊びを満喫できて、本当にいい思い出ができたと思います。
- \* 初めて参加して、「参加できて本当によかった」という一言。自然のなかでのびのびと遊ぶわが子の笑顔を見て、うるうると涙が出てしまいました。施設、環境もよく、ご年配の遊びの知恵、木の工作、手づくりの製作ができて楽しかったようです。親のプログラム（マッサージ）で心も体も癒され、日々のストレス解消となりました。

### <暮らしの中で、いま思うこと、伝えたいこと…>

- \* 自宅周辺では、今、除染作業がすすんでいます。作業員や作業用車が、通学する子どもたちの脇を普通に通り抜ける状態です。「おかしい」と思いつつ、日常に飲まれて、そう感じにくくなる時があります。保養は福島のことを考え直せるチャンスにもなるんだと思います。
- \* 放射能の半減期はセシウム 137 が 30 年なので、まだまだ長い間、気をつけなければと考えています。でもだんだん世間は「大丈夫」といった感じになってきて、そのギャップに苦しめられています。まわりに話をする人がいなくて、孤独感を感じています。
- \* とにかく何も考えずに暮らしたいです。食べるものや遊ぶ場所、生活のすべてが安全に思える安心がほしいです。少し疲れました。親もこういう機会にリフレッシュして、また福島に帰って元気に過ごしたいです。
- \* 除染作業も見慣れてしまい、自宅の畑で野菜を作り食べている方もいます。一方で、自宅の除染後の測定値を見ると、やはり普通でない数値に「これではいけない」と再確認しています。自分の生活環境から、現在の生活を選んでいるため、保養に出ることが重要になっています。
- \* 自分の中にあつた放射能への疑問について、牛山先生（さがみ生協病院医師）とお話しすることができたのは、とても良かったです。知りたいことを誰にどう聞いたらいいのかという簡単なことが、もっと身近なところで、信頼できる先生に聞けたら、もっと心が楽になるのになぁと思います。

## \*ボランティアの皆さんの声\*

- \* 前回、いっしょに遊んで友達になった子どもたち同士が、今回も一緒になって遊んでいる姿が見られてうれしく感じるとともに、このはちみつ會のツアーが、福島の子供たちがつながる機会になっているということが、はっきりとわかりました。
- \* 子どもたちと触れ合うことで、日ごろの福島での吐きだしづらいストレスの発散に少しでも貢献できたのではないかと思います。それ以上に、自分が子どもたちから力をもらった気がしています。来てよかったというのが今の率直な気持ちです。
- \* 前回は食事のお手伝いでしたが、今回は保育で、子どもたちと関わることでできて楽しかったです。
- \* ツアーを継続できて良かった！この保養プロジェクトを大切にしていきたいと思っています。

2014年11月22～24日 はちみつ會 主催「福島親子・町田の森あそびツアー」

\* 後援 町田市 \* 協力（順不同・敬称略） ラ・リチエッタ、かあちゃんず、momyu-na、福島こども支援・八王子、きつねはらっぱ冒険遊び、学生ボランティア団体あおぞら、恵泉女学園大学・山下詠子様、和光大学児童文化研究会、株式会社三和、生活クラブ運動グループ町田市地域協議会、LUSH JAPAN、社会福祉法人共働学舎、町田子ども会育成会連絡協議会・太田克己様

その他、多くの皆さまのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

## 障がいをもつ子どもたちの保養をすすめていくために…

はちみつ會では、以前から、障がいをもつ福島の子どもたちの保養の場をつくりたいと考えてきました。以前に参加された福島の親御さんから、「子どもが新しい環境に慣れるのに時間がかかるため、保養にも行きにくい」「合宿形式だとどうしても気を遣ってしまう」といった切実な声を聞いていたからです。

自分たちに本当にやれるだろうかと悩みつつ、「まずはやってみよう」の精神で、2014年10月、発達障がい・知的障がいの子どもをもつ3家族(子どもは12歳～17歳の7人)を招いて、2泊3日のツアーを開催しました。福島のご家族にも趣旨をご理解いただき、率直な意見を言っていただくことで、今後に生かすことにしました。

会場は、秋川溪谷の「協同村ひだまりファーム」。築100年以上の古民家をお借りし、こじんまりとした環境のなか、芋ほり、木工、散歩、ダンスなど、思い思いの時間をのんびりと過ごしました。また、夜はリラックスして休めるよう、1家族に1部屋ずつ提供しました。

今回の企画には、特別支援学校の先生たち9人に、全面的なご協力をいただきました。さまざまな場面での子どもへの接し方を教えていただいたり、プログラムを提案してくださったり…。「大丈夫、任せて！」という言葉が、どれだけ心強かったかわかりません。親御さんたちにも、安心していただけたことと思います。

今回の経験を大切に、これからの活動に活かしていきたいと思います。

### <ご協力いただいた特別支援学校の先生たちより>

特別支援教育に携わるようになって20年以上たちました。阪神大震災の日は、支援学級の子どもたちと教室でニュースを見ていました。3年半前に起きた東北の震災以降は、自分にできることは何か…すべきことがあるのではないかと、という、居ても立ってもいられない気持ちを抱え、東北に足を運んでみたり、そこでの経験を身近な人に伝えたりしました。昨年からは、町田で開催される保養にボランティア参加するようになり、そのご縁で今回も協力させてもらうことができました。

キャンプを終え、短い時間でしたが、やっとこの時間を持てたなあ…という気持ちが残りました。私と7歳の娘にとって心に残る時間となりました。遠路、福島から来てくださった方々に、ありがとう。この場を設定してくださった、はちみつ會さんに感謝。よい時間になるよう考えてくれたボランティアの皆さんにもThank You。また、みなさんにお会いしたいなあとは思っています。(島津)

はじめて会うお子さんたちと一日中一緒に過ごす貴重な機会、本当に面白かったです。親御さんにとって保養になったかはわかりませんが、一緒に踊ったり、お子さんの様子を笑顔でカメラにおさめている姿をたくさん見かけたので、きっと満足した一日になったのではと思いました

私たち自身も貴重な体験をさせていただきました。たくさんの関係者が、それぞれの判断で必要なポジションについて、一緒に緩やかに時間を過ごす。お子さんが手持ち無沙汰にならないかと心配もありましたが、年齢が高いお子さんが多かったこともあり、自分でやりたい活動を選べるお子さんも多く、今回のコンセプトには合っていたように思いました。今後も、こうした機会が多数設定されていくことを願っています。(松本)

台風の影響を受けずに一日過ごせてよかった。インパクトの強いお子さんもいましたが、一人ひとりになると素直な一面を見せてくれて、楽しんでくれているように思いました。(田口)

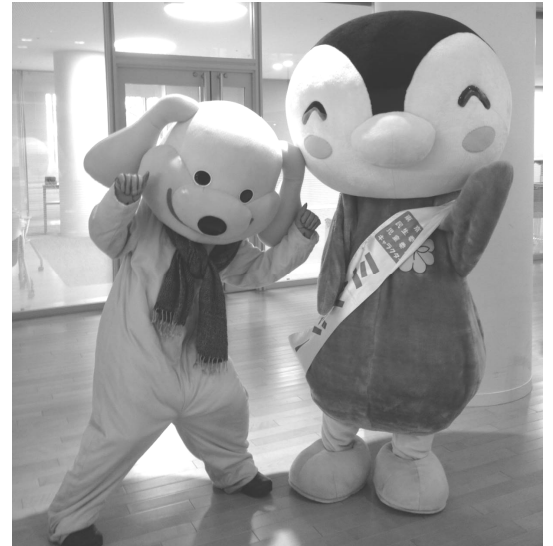
子どもたちの笑顔、素直さに癒された1日でした。子どもたちの遊び場を確保すること、そして、保護者の方にゆっくりしていただくこと、どちらも含めた素敵な企画だと思います。また、プログラムのようなものがなく、子どもたちがのんびりとできることも良かったと思います。(かすみ)

2014年11月19日

## 町田市の市民団体・NPOのおまつり「まちカフェ」で、 おがわてつじさんの写真展を開催しました。



おがわてつじさんは、震災以来、福島の子どもたちが大切にしている「たからもの」をテーマに、作品を発表されている、福島出身の写真家です。はちみつ会のメンバーの同級生でもあり、横浜市緑区のカフェ「Hura-meshi」での写真展でお会いしたご縁で、今回の企画を実現することができました。周りの出展団体など、たくさんの方が訪れてくださり、おがわさんは来場者と直接ゆっくりお話ししながら、作品を紹介されていました。なかには涙ぐむ方もいらっしゃいました。「たからもの」はいろいろ。「友達」を連れてきた子もいます。カメラのこちらをまっすぐ見つめる子どもたちのまなざしが、心に焼き付いています。  
\*おがわてつじさんの写真集『ふくしま こども たからもの』（かもがわ出版、2013年）を、ぜひ手に取ってみてください。



はちみつ会のマスコット「ビーくん」も呼び込みを頑張りました。会場で会った民生委員のゆるキャラ「ミンジー」との貴重なツーショット。

はちみつ会のホームページではブログやFacebookで最新の活動を紹介しています。  
「はちみつ会」で検索してみてくださいね！

➡ホームページ（ブログ） <http://hachimitsukai.jimdo.com/>

➡Facebook <https://www.facebook.com/hachimitsukai.f>

## はちみつ會を支えてくださる皆さまへ——御礼のご挨拶

皆さまのご協力により、福島から45人の福島の親子を招き、無事に4回目の保養ツアーを終えることができました。今回、はじめて11月の紅葉の秋にツアーを開催しました。大地沢青少年センターは豊かな自然があふれる場所でもあり、とてもたくさんの落ち葉で地面はふかふか。子どもたちは、大喜びで走って飛んで、喜んでいました。

福島の親御さんは、「福島では枯葉に触れるようなことはさせないので、落ち葉だけでこんなに子どもたちが楽しそうに遊ぶとは思わなかった」と喜んでいました。参加した子どものなかには、枯葉で遊んだことがない世代が含まれていることを知り、自然に自由に触れられなくなってすでに4年が経っていることを実感しました。

福島からの参加者のなかに保母さんをされている方がおり、震災前と後では、子どもたちの成長に違いを感じていると言われていました。人間の基本的な五感や感性を育てる年齢にこそ屋外での遊びが必要なのに、除染されたとはいえ、屋外での遊びは制限を設け、ほとんどは屋内の遊びとなっている。屋外では多くの雑音のなかで遠くから呼びかけた声を聞き分けるものですが、屋内では距離が近く、そういった力が欠けている、などの実感を語っていらっしゃいました。

お子さんが甲状腺検査で「のう胞」が見つかったという方もおり、それが自然に発生したのか、それとも、自分が不安に感じていることが原因なのか、考えると不安になるという声もありました。

福島の親御さんの話を聞いていると、時間が経つごとに、福島では放射能の問題がより複雑で深刻になっていると感じます。世間では放射能の問題を忘れはじめている傾向があるようですが、忘れれば汚染が無くなるわけではありません。今後も、福島の親子に寄り添っていきたいと思います。

また10月には、私たちの勉強も兼ねて、参加者様に趣旨をご理解いただいた上で、障がいをもつ子どもを対象とした保養も行ないました。遊ぶ場所や注意点などを子どもに伝えても目に見えない放射線については理解が難しかったり、身体が不自由な方は自由を制限された環境の中でさらに不自由さを感じている、といったことを耳にしてから、障がいをもつ子どもたちの保養の必要性が、常に頭の中にありました。あえて健常者と分けて行なうことに意味があるのかについても悩んだ末、いちど開催することで考えてみようと考えました。参加した親御さんからは、「障がいのことを周りになかなか理解してもらえず、つらい経験をしたことがあるので、“障がいをもつ子ども向け”となっていると参加しやすい」といったご意見もありました。今後もいろいろな意見をいただきながら、継続して取り組んでいきたいと思っております。

今回は、LUSH JAPAN様から助成金をいただき、運営を支えていただきました。また、町田の地元スーパーの株式会社三和様から食材提供というかたちでご協力をいただきました。そのほか、子どもたちの見守りや料理をしてくださったボランティアの皆さん、ご寄付をいただいた皆さんの支えがあって、この活動が続けられています。あらためて皆さまに御礼を申し上げます。

参加者の親御さんたちは、「この活動を継続してほしい」と言ってくださっています。その声にこたえ、私たちは、このツアーを長く続けていきたいと思っております。今後ともご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

はちみつ會 代表  
横山正浩

\* 次回の保養ツアーは、2015年5月2日～6日（於：大地沢青少年センター）を予定しています。

**[問合せ・申込先] TEL080-8898-7860 (やぎ) E-mail hachimitsukai@yahoo.co.jp**